

第9話 佐敷按司

んかし んかし りゆーちゅー ふー むら さしちぐしく く ぐしく さしちあじ ゆ をーじ し
昔、昔、琉球ぬ南ぬ村んかい佐敷城ぬあて、此ぬ城んかい佐敷按司んで言る王子ぬ住どーいびーた
ん。佐敷按司や五体んまぎさい、武芸優りとーるつ人やいびーたん。ふどぬ小さる事から、人々や佐敷
按司ぬ事、佐敷小按司んで言ち、親みくみて、名付きて、呼どーいびーたん。

ある時、佐敷ぬ港んかい余所ぬ国から船ぬ来や一びたん。

男「船ぬ入つちょーんどー」

女「おー、まぎさる船やさー」

大男『くりが琉球い。ふん、あんし小さる国やる』

男「あぬ丘に建つしが佐敷城やいびーん。あまに意地強さるじんぶん持ちぬ五体まぎー、民んかい
慕一つとーる王子ぬ居んで、言びーん」

大男「何やんー。意地強さる五体まぎー、じんぶん持ちんでなー。我んやかなー」

女「うぬつ人、佐敷小按司やいびーさ。うれー、大事な御方やいびーん。あぬつ人んかい勝ちゆるつ人ー、
居いびらん。此間ん、どーやかまぎさる大男、遠さる海んかい投ぎ飛ばちょーいびーん」

大男「ほー」

大男「くまいちゆたー。くまなかい武芸優りとーる男ぬ居んち聞ちゃん。是非、立合願ゆん」

門番「う、う、うー、さ、佐敷王様ー！」

按司「くれー、くれー、誰やみしぇーがやー」

大男『んー、何時ぬ目に』

大男『ふん、小さる男よ』「うんじゅが名うつちょーる、武芸に優りとーる佐敷小按司どやるい」

按司「變らん。小按司で言しぇー、ふど小さくと、人々ぬ付きたる名。本当ぬ名や佐敷按司やいびーん」

大男『民んかいしぇーらりー者ー、情けーねーらん男』「ふん、噂通い、うんじゅが武芸ぬ上がやら、我
んーが上がやら、先じえー我ー武芸見して取らさ。」

按司「うー、分かいびたん」